そのまま教室に掲示！

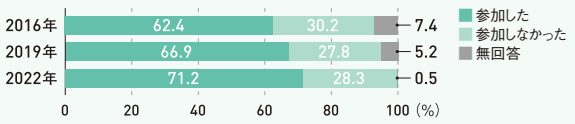
進路環境D

—「今」が見えてく

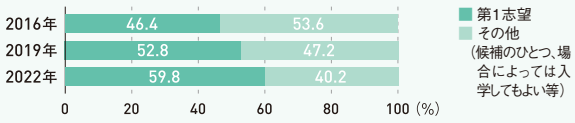
進学の動向

志望校絞り込みの早期化

［進学する大学のオープンキャンパスの参加経験］



［進学する大学のオープンキャンパス参加時の志望度合い］

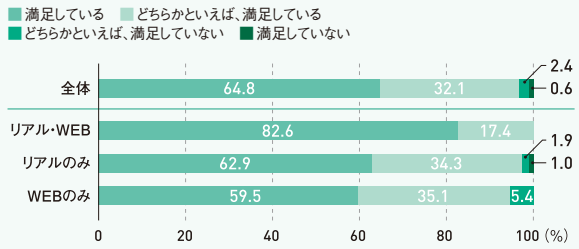


「自身が進学する大学」のオープンキャンパスへの参加経験者は7割超。その「第1志望」としての参加比率の上昇から、事前に情報収集し、早期に志望校を絞り込んだうえで参加する傾向がうかがえる。

リクルート進学総研「進学センサス2022　高校生の進路選択に関する調査」
※大学進学者に関する過去3回の調査データを抜粋

リアルとWEBの両方参加で満足度UP

［進学先のオープンキャンパス参加における満足度］

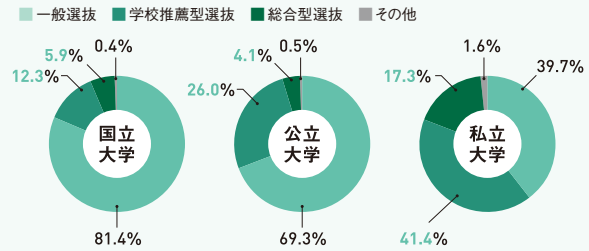


オープンキャンパスをWEBでも開催する学校が増加している。参加者の満足度は総じて高いものの、リアルとWEBの両方に参加した人の満足度が最も高い。オンラインでの情報収集も積極的に活用しながら、リアルなオープンキャンパスで学校や学生の雰囲気を把握しよう。

株式会社アンド・ディ「オンラインオープンキャンパスに関する調査」（2021年）
※「リアル」は、「学校で開催されたオープンキャンパス」を示す

大学入試は多面的・総合的評価の方向へ

［選抜方式別に見た入学者の割合］

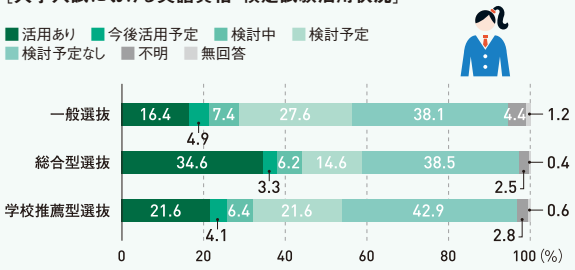


一般選抜以外による入学者は増加傾向にあり、国立大学で約2割、公立大学で約3割、私立大学で約6割。なかでも総合型による入学者が増加。志願者を知識だけでなく多面的・総合的に評価する動きが活発だ。

文部科学省「令和5年度国公私立大学入学者選抜実施状況」より集計
※「その他」は専門学科・総合学科卒業生選抜、帰国生徒選抜、中国引揚者等生徒選抜、社会人選抜、その他選抜の合計

将来を見据えた英語4技能の習得を

［大学入試における英語資格・検定試験活用状況］

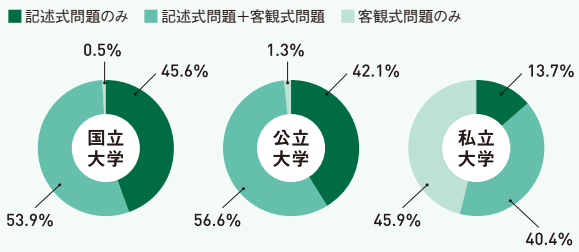


大学入試では、いずれの入試方式でも英語4技能（読む・聞く・書く・話す）を測る民間の検定試験の活用が進んでいる。「今後活用予定」「検討中」という学校もあり、今後も活用比率の上昇が予想される。大学入学後やその先のグローバル社会を見据えて4技能習得を目指したい。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

記述式問題で問われる思考力・判断力・表現力

［一般選抜における出題形式の状況］

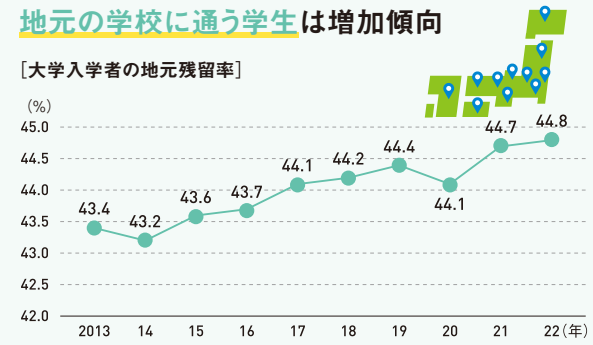


大学入学共通テストへの記述式問題導入は見送られたが、個別学力検査では既にほとんどの国公立大、半数強の私立大が記述式問題を出題している。解答には自らの力で考えをまとめたり、根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力が必要。日頃の授業から自分の考えを言語化する練習を。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」
※記述式：語句、文、図表などで解答／客観式：○×式、選択式、並べ替え式など

地元の学校に通う学生は増加傾向

［大学入学者の地元残留率］

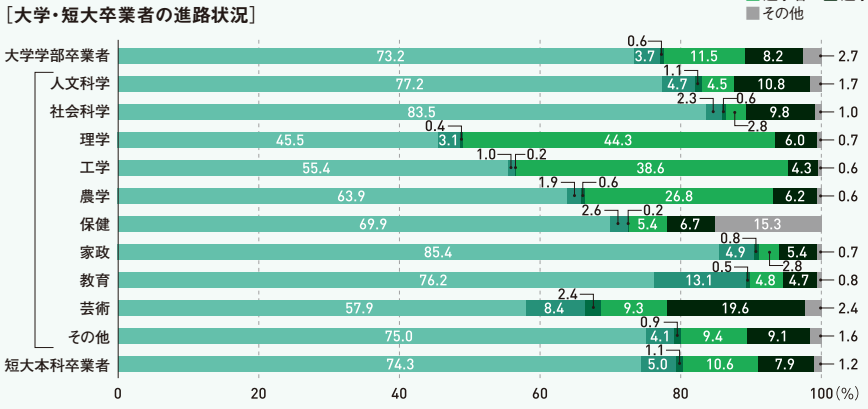


大学入学者の地元残留率は、2013年の43.4%から2022年は44.8%と、10年間で1.4ポイント上昇。短大入学者では同年比較で3.0ポイント上昇している。都市部にも地元にも、魅力ある学校や企業は数多くあるもの。広い視野をもって進路選択を行おう。

リクルート進学総研 マーケットリポート2022（2023年2月号）
「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」

大卒者の1割弱は「進学でも就職でもない」

［大学・短大卒業者の進路状況］

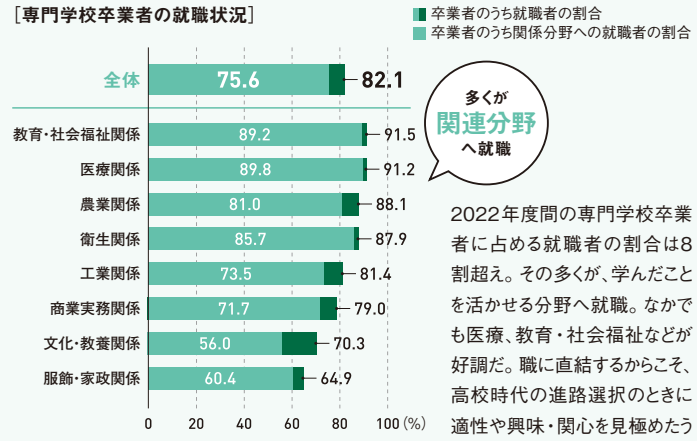


2023年大学卒業者全体に占める就職者（無期雇用・自営業主）の割合は73.2%。大学院等への進学者は平均11.5%だが、理系学部の比率は高め。進学でも就職でもない（無業）者は8.2%存在。大学で何を学ぶか、目的・目標をもって進学し、卒業後の進路につなげたい。

文部科学省「学校基本調査」（2023年3月卒業者について）より集計※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者（就職しかつ進学した者を含む）
※「有期雇用労働者」は雇用契約期間が1カ月以上で期間の定めのある者、「臨時労働者」は雇用契約期間が1カ月未満で期間の定めのある者
※グラフでは「臨床研修医（予定者を含む）」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

職に直結していく専門学校の学び

［専門学校卒業者の就職状況］



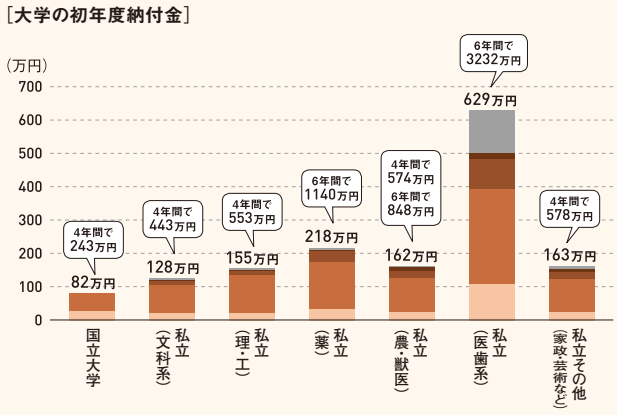
2022年度間の専門学校卒業者に占める就職者の割合は8割超え。その多くが、学んだことを活かせる分野へ就職。なかでも医療、教育・社会福祉などが好調だ。職に直結するからこそ、高校時代の進路選択のときに適性や興味・関心を見極めたうえで進学することが欠かせない。

文部科学省「学校基本調査」（2022年度間）より集計

進学費用の動向

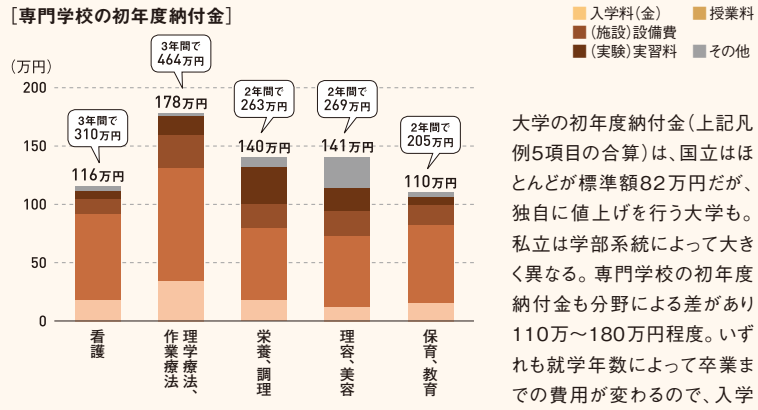
初年度学納金は約100万円～。分野によって大きな差

［大学の初年度納付金］



文部科学省「令和5年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金等平均額（定員1人当たり）」（昼間部）
※国立大学は標準額　※1万円未満は四捨五入　※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

［専門学校の初年度納付金］



東京都専修学校各種学校協会「令和4年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程（専門学校）平均（昼間部）より抜粋
※1万円未満は四捨五入　※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

大学の初年度納付金（上記凡例5項目の合算）は、国立はほとんどが標準額82万円だが、独自に値上げを行う大学も。私立は学部系統によって大きく異なる。専門学校の初年度納付金も分野による差があり110万～180万円程度。いずれも就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に総額の見通しを立てておくことが大切だ。

RECRUIT